

# こうじ 工事の げんば 現場より

## 旧矢筈原家住宅 保存修理事業

今はこんな様子だよ。

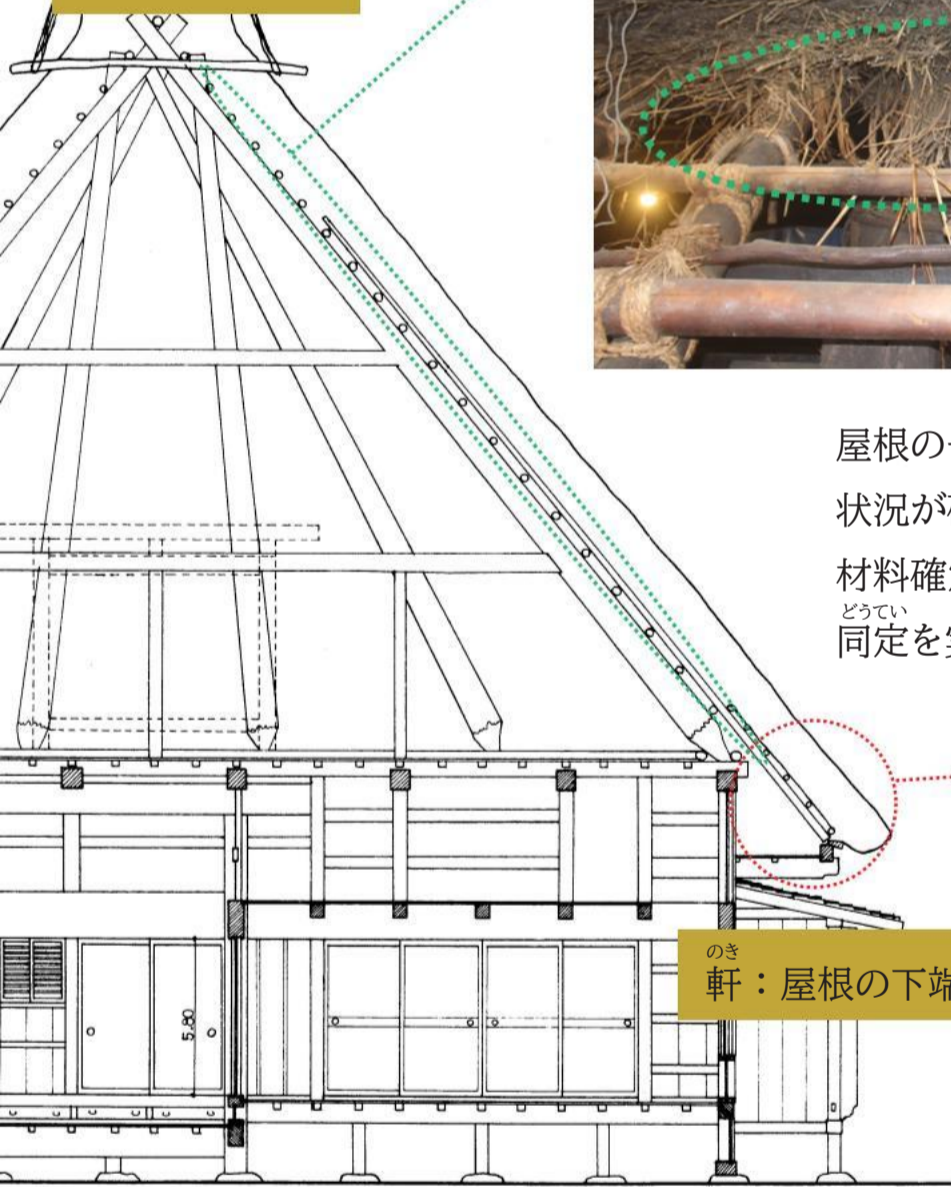
### 5月2週目



屋根葺替工事にあたり古い屋根の解体工事が行われました。茅葺屋根は作り方や素材にそれぞれの地域の独自性が顕著に見られるため、古い屋根の状況を確認しながらの解体作業が重要になります。また旧矢筈原家住宅は現在はここ横浜にありますが、かつては岐阜の白川郷荘川町にあったことを重視し、過去の葺替工事では白川郷荘川町の屋根の葺き方を調べて実施した記録も残っていました。それらの記録と、現状残されている古い屋根の解体調査の結果、また同じく白川郷荘川町での他の建物の施工事例を参考にし、今回新たに葺く屋根をどのようにするべきか検討を行っていきます。

#### 特殊仕様①内側に並べられたヨシ？

むね  
棟：屋根の頂部



屋根の内側に並べられた状態



解体比較状況 奥がススキ

屋根の一番内側に、ススキとは違う素材（おそらくヨシ？）が敷き詰め並べられている状況が確認されました。こちらは資料調査では類例が確認されず用途が不明で、また材料確定の根拠が得られませんでした。今後材料の調査として専門家に依頼し植物の同定を実施するほか、用途確認のため類例調査をさらに進めて行きます。

#### 特殊仕様②吊り下げ型軒付け

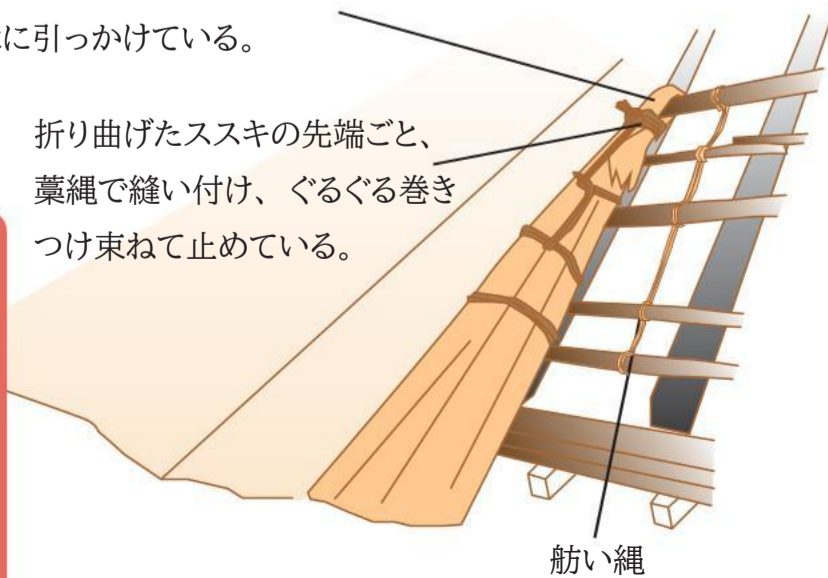
#### ③小屋組み横材ズレ止め吊縄：「舩い縄」

のき  
軒：屋根の下端



ススキを束ねて、先端を丸め横木に引っかけている。

折り曲げたススキの先端ごと、藁縄で縫い付け、ぐるぐる巻きつけ束ねて止めている。



舩い縄

のき 軒の屋根の内側部分を「軒付け」といいますが、そこに特徴的な仕様として茅の束を縛り付けて吊り下げている施工方法が確認されました。類例として、白川郷荘川町から高山市の「飛騨民俗村」に移築された「旧若山家住宅」でも同じ施工方法が採用されていることが知られています。また小屋組みの横材は、「舩い縄」により上から縄で順々に吊り下げられています。恐らく両方とも、茅や小屋組みが雪の重みに引っ張られてずり落ちないようにするための工夫だと推察されます。



過去のお知らせはこちら